

キャンパスFMセルフアセスメントの考え方

JFMA キャンパスFM研究部会長 藤村達雄

国立大学では、行政改革の一環として法人化が取りざたされ始めた平成12年頃から、大学経営という言葉が使われ始め、そのころから、ファシリティマネジメント(以下「FM」という。)が取り上げられるようになりました。私立大学では、先進的な大学において、このころから徐々に、FMの取り組みが始められるようになりました。

これまで、大学のFMについては、文部科学省からの報告書、JFMA発行の「キャンパスFMガイドブック2000」「キャンパスFMガイドブック2008」や大学行政管理学会発行の「キャンパス再生のすすめ - これだけは知っておきたいキャンパスFM - 」の中で、考え方、心構え、業務方法等が示されてきました。

しかしながら、各大学におけるFMの取組は、各々の施設担当部署に委ねられており、その状況は、相当な格差が生じてきていることは否めないところです。

また、大学経営を精力的に推し進めようとする経営トップ層の中には、施設担当部署は、すべてアウトソーシングが可能で、その方が、コストパフォーマンスが高いという見方もあります。そのように見られた時に、関係の方々は、FMの重要性や必要性をどのように訴えて来られたのでしょうか。いずれにしましても、施設担当部署は、厳しい状況の中に置かれていることに変わりはありません。

そこで、「キャンパスFMセルフアセスメント」を、施設担当者が自らFMへの認識を新たにし、自らのスキルを向上させるとともに、施設担当部署の業務改善の一助としていただくことを目的に開発して参りました。

これから、大学経営は少子高齢化や超低成長時代の中で益々厳しい状況に晒されることとなります。施設部署は、更なる定員削減、より効率的な業務運営、教育研究活動においての多大な成果を上げるための様々な工夫が求められこととなります。これらを解決するにはFMが有益であり、このセルフアセスメントは、それを確認するためのツールであります。

今後とも、キャンパスFM研究部会においては、大学の施設担当者の方々が、FMに基づくスキルアップ、業務改善、組織改革等に取り組んでいただけるように、各種の調査研究を進めてまいりますので、皆様からの忌憚のないご意見や、ご提案を頂ければ幸いです。

〔事務局担当〕西村 祐史

TEL 03-6912-1177

E-Mail nishimura@jfma.or.jp